

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

令和3年12月10日

施設名	県民文化ホール	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	---------	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	高知県立県民文化ホール共同企業体	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	高知市本町4-3-30		
事業内容	県民の明るく豊かな文化生活の向上に寄与するための文化事業の実施、及び音楽、演劇その他の催しのための場の提供を行う。 ・施設利用の許可等 ・ホール事業の企画等 ・施設及び設備の管理 ・その他ホールの設置の目的を達成するための業務		
施設内容	<建物>延べ床面積: 11,842.77㎡ 鉄筋コンクリート(一部鉄骨)地下1階地上4階 <土地> 5,288.15㎡ <主要施設> 大ホール(1507席)、小ホール(500席)、楽屋、リハーサル室、多目的室など <開館時間> 午前9時～午後10時 <休館日> 12月29日～1月3日 <主な料金> ホール・多目的室は午前・午後・夜間・全日の別で料金設定		
職員体制	常勤職員: 24人 契約職員: 1人 非常勤: 2人 合計: 27人		

※職員数は令和2年4月1日現在

2 収支の状況

単位: 千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
収入	県支出金	105,491	178,913	124,927
	事業収入	35,160	53,908	167,193
	その他	970	1,800	3,391
	収入計(a)	141,621	234,621	295,511
支出	事業費	170,117	232,633	295,511
	(うち人件費)	(119,194)	(135,083)	(122,803)
	その他	0	0	0
	支出計(b)	170,117	232,633	295,511
収支差額 (a)-(b)		-28,496	1,988	0

3 利用状況

	令和元年度(実績)		令和2年度(実績)		前年度比
① 年間利用者数 (単位: 人)	オレンジ	休館	オレンジ	33,670 人	—
	グリーン	休館	グリーン	12,429 人	—
	多目的室	77,036 人	多目的室	46,151 人	— 30,885人
	計	77,036 人	計	92,250 人	—
	<利用実績> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館や事業中止により利用者数が減少した。 オレンジ: 目標人数200,000人、達成率16.8% グリーン: 目標人数55,000人、達成率22.6% 多目的室: 目標人数96,000人、達成率48.1%				

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>①自主事業来場者アンケート 実施時期＝年間 実施方法＝来場者にアンケート用紙を配布 回答数＝各自主事業平均回答数約139 回答内容＝性別、年代、居住地域、来場動機、鑑賞希望ジャンルほか</p> <p>②来館者アンケート 実施時期＝年間 実施方法＝多目的棟1回交流スペースにご意見箱を設置 回答数＝3 回答内容＝自由記述 主な自由筆記＝壁掛け時計の設置希望他</p> <p>③利用者Webアンケート 実施時期＝令和2年4月1日～令和3年3月31日 実施方法＝施設利用者を対象とし、請求書にWebアンケートのQRコードを記載したご協力願いのカードを同封 回答数＝12 回答内容＝自由記述 主な自由筆記＝スタッフの対応満足度他</p> <p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

要求水準 1

施設及び設備の維持管理を適切に行い、安全かつ快適な利用環境を提供する

評価項目

- (1) 施設及び設備の保守点検等を適切に行うとともに、安全管理を適切に行い、故障や事故のない運営を行う。
 - ・点検、修繕の実績
 - ・業務委託の状況
- (2) 災害発生時における利用者の避難その他の応急対策、及び津波避難ビルとして一時的に避難者を受け入れることについてあらかじめ検討し、必要な対策を講じる。
 - ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策
 - ・マニュアルの作成
 - ・職員研修

状況説明

- ・施設および設備の保守点検等は、法定点検回数を遵守し、適切に行った。
- ・多目的室利用者、交流スペース利用者の怪我、事故等が発生しないよう、適宜棟内を巡回し、管理している。
- ・施設管理・清掃スタッフから施設の状態を聞くとともに、職員が巡回した際に気づいた問題点があれば、安全確保第一に対応している。1階交流スペース北側のガラス衝突防止用安全サインパーツが1カ所欠落していたのを補修。手すりが錆びて危険だった北楽屋入口の鉄製に防錆塗装を行うなど、適宜対応している。
- ・LED照明への切り替え、3階屋根トップライトの雨漏り修繕などについては設置者と相談して適宜行った。
- ・新型コロナウイルスの感染防止策として、受付には消毒液、透明フィルム、サーモカメラを設置するなど対策を講じた。国・県の発表に沿って、その都度、館としての対応と利用者への協力要請文書を利用者に配布、ホームページやパネル掲示などでも周知を図った。また文化庁、県の新型コロナウイルス感染防止に関する補助を利用して、備品の取得に努めた。
- ・2年度は12月、3月に避難誘導訓練を実施。職員それぞれに役割を持たせ訓練を行った。新型コロナ感染防止のため、中央消防署員の立ち会いは見送った。
- ・防災についての対応力向上のため、事業課職員1人が防災士の資格を取得、前年度の2人と合わせ資格取得者は3人となった。
- ・非常持ち出しセットなど防災グッズを購入、棚等の転倒防止金具取付工事を行った。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な施設及び設備の維持管理を行い、安全かつ快適な利用環境の提供に努めていることが認められる。 ・新型コロナウイルス感染予防策について、適切に行われている。

要求水準 2

利用者の満足度を高める運営により、施設利用の促進を図る

評価項目

- (1) 文化団体等が自ら行う音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の公演・発表や練習の場として、またその他の文化活動の日常の活動拠点として利用しやすい運営を行い、県民の芸術文化活動の拠点施設としての利用を促進する。
- (2) 民間興行による公演、各種団体の会議その他の催し物の用に供する施設として、主催者が希望する施設の利用形態に応じて、利用しやすい環境とサービスを提供することにより、施設利用率の向上に努める。
- (3) 利用者のニーズや評価等に関する調査・分析を行い、その結果を生かして、施設の機能強化やサービス改善に努める。

状況説明

- ・ホール・多目的室の利用に際して、事前に提出いただく利用許可申請書、優先予約事前協議書、またホール・多目的室ご利用案内などの内容を随時精査し、記入いただく際により分かりやすくなるよう努めている。初めてご利用いただく方にも、必要事項を理解しやすくしている。迅速に、より平等な対応ができるよう、内規の見直しも逐次行っている。
- ・ホームページは2016年からの自主事業のアーカイブを追加。自主事業のうちジュニアオーケストラ、教育普及事業、サポート事業を分けて表示するなど、知りたい情報が入手しやすくなるよう工夫した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策についてはガイドラインの最新の情報をホームページで紹介、周知を図るとともに、相談にも真摯に対応した。
- ・利用者にはウイルス対策を記した文書を配布し、消毒液、サーモメーター等を貸し出すなど、感染拡大防止に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、公演の中止が相次いたが、次につながる関係を保つため、相手の立場を理解して真摯な対応を行った。次年度に延期した事案も多くなっている。
- ・主催者、利用者が安全・安心して利用いただけるよう貸し出す前には入念に消毒を行い、サーモメーター、非接触体温計、アルコール消毒液の無料貸し出しを行うなど、利用者の負担を少しでも軽くするよう配慮した。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、交流スペースのテーブル、椅子のレイアウトを対面を避けるように変更した。
- ・感染対策も含め、ホール利用者と技術課が綿密に事前打ち合わせを行い、スムーズな事業実施に結び付けた。
- ・感染防止のためにやむなく中止した公演、会議については、県のカンセル料を含め全額還付を行って利用者の負担を減らし、今後も利用してもらえる関係を築いた。
- ・県内文化施設の拠点館であり、公演情報をはじめ問い合わせの内容が多岐にわたっている。他館での催しやチケットを扱っていない公演等についてもタブレット端末で検索するなどして利用者の立場に立った丁寧な対応に努めている。ワンストップで対応できる体制が整ってきている。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、アンケートを見送った主催事業が多数あった。実施したのは新スタンウェイピアノ導入を機に企画した「一般の方に新旧ピアノを弾き比べてもらう企画」と「プロによる新旧ピアノ弾き比べレクチャーコンサート」の2件。弾き比べ体験のアンケートでは、タイムリーな企画であったこと、また一般の方がホールの舞台上で弾き比べられる貴重な体験であったことが記され、満足度100%だった。県民文化ホールファン増につながっていることが分かり、今後の運営につなげていけるヒントが得られた。(事業報告書 15～17P)
- ・来館者アンケートは事務棟1階の交流スペース横に回収ボックスを置き無記名投函式で調査し、3件の意見をいただいた。(事業報告書 18P)
- ・webでの利用者アンケートは12件の回答が得られた。2次元バーコードは回答者も手軽に利用できる有効なツールなので、これからも活用していきたい。(事業報告書 18P)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の文化芸術の拠点施設として、利用者の立場に立ち、快適な環境とサービスの提供に努めるとともに、利用促進のための情報発信等を行うなど利用向上に努めていることが認められる。 ・新型コロナウイルスの影響で中止となった事業についても、主催者と真摯に向き合い、次年度に延期するなど、事業の継続に向けた努力が認められる。 ・来場者、来館者に分けてアンケートを行い、結果を更なるサービス改善などに生かすことに努めていることが認められる。

要求水準 3

質の高い芸術文化公演の企画・実施により、県民に優れた芸術鑑賞の機会を提供する

評価項目

- (1) 地域の芸術文化の広域拠点施設として、大ホール及び小ホールそれぞれの規模にふさわしい音楽や舞台芸術などの公演を自主的に企画し、実施する。
- (2) 県民の多種多様な鑑賞ニーズに応えるため、幅広いジャンルから上質な作品をバランスよく上演する。

状況説明

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、密を避ける狙いもあり、大ホールでの開催が多くなった。県民文化ホールで行った映画を除く主催公演の9本中8本が大ホールでの実施で、小ホールで行ったのは親子対象の「絵本 de クラシック」の1件だけだった。
- ・新しい地域連携、施設外事業の取り組みとして、感染防止対策が取りやすい屋外でのドライブ・イン・シアターを3件実施。家族での会話が心おきなくでき、また障がいのある方も参加しやすいイベントであり、何れも好評だった。
- ・土佐清水市立市民文化会館と連携して行った子ども向け演劇・ジスター公演「ウラシマコタロウ」では地元のダンスチームも出演し、地域の盛り上げと芸術文化振興に一役買った。
- ・絵本 de クラシック プレーメンの音楽隊は親子が対象で、2回公演合計でグリーンホールに470人を動員。コロナ禍ではあったが、親子で楽しむ場を提供できた。
- ・ホール再開に向けて多彩な主催事業を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止せざるを得ないものが鑑賞事業26件中9件あった。県内でコロナ禍初の開催となった「柳家喬太郎独演会」ではチケット販売後に間引き席とし、配席のやり直しをはじめ看護師の配置や消毒など徹底した感染防止対策を施して実施。イベント関係者が多数視察に訪れる注目の公演となった。また新たな試みとして感染防止を図りながら家族で映画鑑賞ができる屋外でのドライブ・イン・シアターも実施した。17件の主催事業は何れも感染防止対策を徹底して実施。観客動員が伸びない事業もあったが、来場者は概ね満足していただけたと思っている。(事業報告書2～6P)

1.主催事業

・映画

「7月 ドライブ・イン・シアターin 日高村(県文シネマ月あかり)」(日高村総合運動公園野球場 450人:3日間中1日は中止)

「県文シネマ日和 vol.12 ドロステのはてで僕ら」(小ホール:141人:2日間)

「星空のドライブ・イン・シアターVol.1(春野総合運動公園・運動広場D 510人:3日間)

「県文シネマ日和 vol.13 星屑の町」(小ホール:121人:2日間)

「県文シネマ日和 vol.14 ビューティフルドリーマー」(小ホール:70人)

「第66回県民が選ぶ映画ベストテン」(小ホール:129人) 土佐清水市立市民会館でも実施

「3月 ドライブ・イン・シアターin 日高村(県文シネマ月あかり)」(日高村総合運動公園野球場 330人:2日間)

「県文シネマ日和 vol.15 ドリーミング村上春樹」(小ホール:91人)

・トークショー

「山里亮太の140高知公演」(大ホール 711人)

・器楽

「横山幸雄 新旧スタインウェイピアノ弾き比べ《レクチャー》コンサート」(大ホール:160人)

「千住真理子ヴァイオリンリサイタル 高知公演」(大ホール:494人)

「絵本 de クラシック プレーメンの音楽隊」(小ホール:470人)

「明和電機 ナンセンスマシーンコンサート」[「明和電機ヒゲ博士とナンセンス★マシーンコンサート」(大ホール:339人)]

・舞踊・ダンス

「インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyo 高知公演」(大ホール:36人)
「コンドルズ高知スペシャル公演 2021 ビューティフルドリーマー」(大ホール:148人)

・演劇
「ジスター公演 ウラシマコタロウ」(土佐清水市立市民文化会館:118人):土佐清水市立市民文化会館との連携事業

・芸能
「柳家喬太郎 独演会」(大ホール:576人)

※中止:「ドラゴンクエストコンサート in KOCHI I、II、III」「舞台 たけしの挑戦状ビヨンド」「徳永ゆうき × 松阪ゆうきスペシャルコンサート with 津軽三味線・山下靖喬」「スライド・モンスターズ ジャパン・ツアー2020""トラベラーズ""」「吉見友貴 ピアノ・リサイタル 2020」「恐竜どうぶつ園 2020~Erth's Dinosaur Zoo~」「スケリグ 高知公演」「中村勘九郎 中村七之助錦秋特別公演 2020」「marasy piano live tour 2020」

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響もあり、開催出来なかった事業もあったが、「柳家喬太郎 独演会」においては、配席の工夫や感染防止策を拡充するなど、工夫が認められる。 ・新たに感染防止を図りながら、屋外で映画鑑賞ができるドライブ・イン・シアターを企画し、県民が芸術文化に触れる機会を創出したことが評価出来る。 ・土佐清水市立市民文化会館、藁工ミュージアムなどと連携した事業展開を行うなど、地域の芸術文化の広域拠点施設としての役割を果たしている。

要求水準 4

地域の創造力の向上に向けて、芸術文化を担う人材を育成する

評価項目

- (1) 自主企画により上演される作品等をテーマや素材にして、芸術文化への関心を高め、理解を深めていく事業を行い、芸術文化振興の担い手となる観客を育成するよう努める。
- (2) 学校その他の教育機関で、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の実演又は舞台設備、舞台音響、舞台照明等の効果的な運用操作などの舞台芸術に関する活動を行っている児童生徒を対象に、講習会の開催や発表機会の提供等を行い、次代の芸術文化を担う人材を育成するよう努める。
- (3) 指定管理者の自主事業として運営されているジュニアオーケストラの活動を継続し、芸術文化を通して青少年の健全育成を図るとともに、育成のための支援体制を充実させることにより、オーケストラとしてのレベルアップに努める。

状況説明

(主催事業)

- ・「横山幸雄新旧スタインウェイピアノ弾き比べ《レクチャー》コンサート」: 新スタインウェイピアノ導入を機に、通常のピアノコンサートにとどめず、新旧スタインウェイピアノで名曲を弾き比べて、音色の違いを感じてもらった。当館独自の催しで、ピアノへの関心を深めてもらうとともに、音色の違いも感じてもらった。
- ・「インテグレイテッド・ダンスカンパニー響-Kyo 高知公演」: 障がいのあるダンサーが在籍するダンス公演を実施。関連イベントとして実施したワークショップでは、車いすダンサーと健常者ダンサーが共にパフォーマンスを体験。身体表現の可能性が広がる体験の場となった。
- ・「絵本 de クラシック ブレーメンの音楽隊」: 絵本とコラボしたクラシックコンサート。プロジェクターでスライドを投影したり声優の朗読に合わせてクラシック音楽を奏で、親子で芸術を楽しめる機会を提供した。
- ・「ジスター公演 ウラシマコタロウ」: 土佐清水市立文化会館と連携。地域の子どもたちに演劇公演鑑賞の場を提供した。地元のダンスチームも出演し、収穫の大きい公演となった。

(共催事業)

- ・「第16回スーパーハイスクールブラス演奏会」: 高知県内の高校生による合同バンドでの吹奏楽演奏会を共催し、高校生の音楽文化活動を支援した。

(教育普及事業)

- ・「吉田玉翔の気楽に文楽！～文楽の世界にふれてみよう～」: 高知県出身の文楽・人形遣い吉田玉翔らによるワークショップを開催。文楽を知らない人でも学び楽しめる内容で、好評だった。
- ・「県民文化ホールでピアノ練習しませんか？第1弾・第2弾」: 2020年4月に導入された新スタインウェイピアノ(2019年製)と旧スタインウェイピアノ(1975年製)をホールで弾き比べられる企画。弾き比べに加え、ホール舞台上で演奏できるとあって、大好評だった。
- ・「障害のある方とつくる演劇についてのトーク&ワークショップ 内藤さんに聞いてみよう！演ってみよう」: 劇団「南河内万歳一座」の内藤裕敬座長を講師に迎え「障がい」をテーマにトーク&ワークショップを実施。演劇関係者だけでなく、障がい者施設で勤務する方の参加もあった。
- ・「能 meets 高知」: 観世流能楽師・林本大氏による「分かりにくいからこそ面白い能」講座を実施。解説をまじえた実演を織り交ぜた分かりやすい講座で、能への関心を高める機会となった。
- ・「ヨーロッパ企画のエチュードで学ぶ演劇ワークショップ」: 劇団「ヨーロッパ企画」のメンバー3人が公募によって参加した20人に、即興劇を中心に分かりやすい演劇を体験してもらった。(県文シネマ日和 Vol.12「ドロステのはてで僕ら」の関連として開催)。
- ・「本広克行監督トークイベント ワークショップ」: 県文シネマ日和 Vol.14「ビューティフルドリーマー」の関連イベント。同作品の本広克行監督と監督補山口淳太がアフタートークを展開。制作秘話や業界裏話などで映画への関心を高めた。
- ・4月18日に行う予定だったジュニアオーケストラの定期演奏会を5月に延期したが、新型コロナウイルス

ス感染防止のため中止した。4月、5月は練習も全て休み。6月に練習を再開したが、自習をしてきた団員が多く、講師陣を安堵させた。

- ・8月新型コロナウイルス感染症対策で無観客で開催された「和・洋の古楽が結ぶファンタジーアリーナ NANKOKU」にジュニアオーケストラがゲスト出演。この模様は後日、YouTubeでも配信された。
- ・本年度からの新企画「ちょこっとジュニオケ」を実施した。主催事業の開場時間にロビーで歓迎演奏を披露。初回は千住真理子ヴァイオリンリサイタルで行ったが、多くの方に聴いていただけた。少人数編成ではあるが、団員には貴重な演奏機会となった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主企画事業において、新型コロナウイルスの影響により来場者が一昨年度 29,932 人（昨年度は吊り天井工事により休館）から 10,674 人に減少したが、プロの演奏を聴く機会等を提供し、芸術文化振興の担い手となる観客の育成に努めたと認められる。 ・伝統芸能に関するワークショップを開催し、伝統芸能への関心を深め、芸術文化振興の担い手を育成したと認められる。 ・ジュニアオーケストラの体制強化に努めるとともに、新たな演奏機会の場として「ちょこっとジュニオケ」や他事業へのゲスト出演を行う等、青少年の健全育成とレベルアップに努めたことが認められる。

要求水準 5

関係機関等との連携・協力により、芸術文化の振興を図る

評価項目

- (1) 芸術文化団体が企画する県民参加型の事業や、鑑賞団体が企画する一般の観客を対象とした公演を共催で実施するなど、県民の自主的な芸術文化の振興活動と連携・協力することにより、県民の芸術文化活動への参加の促進や、県民が優れた公演等を鑑賞する機会の拡大に努める。
- (2) 学校その他の教育機関及び芸術文化教育の推進を目的とする団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。
- (3) 県内の他のホールの職員等を対象に、ホールの企画運営や舞台技術に関する実践的な知識及び技術を習得するための研修の機会や、共同開催の公演を実施することによる企画運営ノウハウの移転の機会を設けることによって、地域のホール運営の専門性向上に努める。

状況説明

- ・新型コロナウイルスの影響で芸術文化団体が企画する参加型の事業はなかったが、マスコミ各社との共催で劇団四季「コーラスライン」、PARCO Produce「ねずみの三銃士 第4回企画公演 獣道一直線!!!」(5回公演)、「NHK交響楽団演奏会高知公演」、高校生合同バンドとの共催で「第16回スーパーハイスクールプラス演奏会」を実施。芸術文化の振興活動を支援し、鑑賞機会の拡大につながる支援を行った。
- ・学校その他の教育機関及び芸術文化教育事業は、新型コロナウイルスの影響で思うように動けない状況が続く1年だった。2年度は中止になった高校演劇夏期舞台技術講習、新人演奏会、こうちこども音楽プロジェクト(KCMP)、名曲コンサートなどはブラッシュアップさせて次年度には実施する予定である。また情報収集に努め、新しい教育普及事業、アウトリーチ事業も加えての展開も考えている。
- ・高知県文化施設協議会(正会員29館、オブザーバー9)の会長館として、2回の会合を運営し、情報交換、研修を行っている。1回目の総会は県民文化ホールで行い、新型コロナウイルス感染症対応を主題に意見交換を行い、県民文化ホールからは、コロナ禍で最初の公演となった柳家喬太郎独演会のコロナ対策について、また初めての取り組みとなったドライブインシアターについて報告した。2回目の臨時会では、新型コロナ感染防止のためリアル会合とせず、アンケート形式で行った。各館から質問事項を挙げてもらい、それぞれの館の回答をまとめて、情報共有した。
- ・県民文化ホールと土佐清水市立市民文化会館が連携して、子どもを対象の演劇公演「ジスター公演 ウラシマコタロウ」を実施した。両館の職員が合同で取り組み、見識と交流を深めた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ各社と連携し、県民が質の高い公演等を鑑賞する機会を提供し、県民の文化活動への参加を促進したことが認められる。 ・新型コロナウイルスの影響により、県内の若手音楽家たちによる活動は満足に出来なかったが、支援は継続しており、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会の提供や、芸術文化活動への参加を促進する取組が評価出来る。 ・土佐清水市立市民文化会館と「ジスター公演ウラシマコタロウ」を両館の職員が合同で実施し、地域のホール運営の専門性向上に努めたことが認められる。

その他

評価項目

(1) 社会的責任

- ・法令等の遵守
- ・個人情報
- ・情報公開の状況

状況説明

- ・条令や内規等に基づいて管理運営業務を行い、「公平・公正」な対応を行った。
- ・内規は随時見直し、改善点が見つければ即座に修正を加えている。
- ・利用者の個人情報を扱う受付管理システムはネット環境とは切り離し情報流出を防いでいる。個人情報が記載された書類は用途使用後はシュレッダーにかけている。来館される利用者の事務室への立ち入りは受付カウンターまでとし、事務室開室中は必ずスタッフが在室し、情報流出を防いでいる。
- ・事業課のPCはネット環境にはあるが、各PCは本社管理のUSBメモリしか接続できないようにしてウイルス感染防止対策を行っている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策で公演来場者の連絡先を把握することになっているが、取得後一定期間保管後にはシュレッダーにかけ、個人情報保護に努めている。
- ・情報開示はホームページをメインツールにしている。
- ・毎月発行している「催物案内」に季節感を感じられるイラストを加えるとともに、レイアウト工夫し、より見やすく分かり易くなるように改善した。

評価	理由
B	・適切な管理運営がされたと認められる。

評価項目

(2) 利用実績

利用実績の状況:利用状況の分析

状況説明

区分		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	前年度比
オレンジホール (大ホール)	開館日数	340日	339日	341日		335日	令和元年度は吊り天井改修工事のため休館。
	利用日数	246日	228日	239日		88日	△151
	利用率	72.4%	67.3%	70.1%		26.3%	△43.8
	利用件数	193件	174件	186件		66件	△120
	入場者数	206,250人	189,217人	189,545人		33,670人	△155,875
グリーンホール (小ホール)	開館日数	334日	342日	341日		335日	令和元年度は吊り天井改修工事のため休館。
	利用日数	245日	248日	254日		129日	△125
	利用率	73.4%	72.5%	74.5%		43.8%	△30.7
	利用件数	203件	215件	218件		112件	△106
	入場者数	54,740人	54,505人	52,665人		12,429人	△40,236
多目的室	延べ開館日数	3,949日	3,949日	3,949日	3,960日	3,960日	
	延べ利用日数	2,443日	2,502日	2,636日	2,379日	1,729日	△650
	延べ利用率	61.9%	63.4%	66.8%	60.1%	43.7%	△17.1
	利用人数	85,162人	95,952人	95,138人	77,036人	46,151人	△30,885

評価	理由
B	・新型コロナウイルスの影響などにより全体的に減少しているが、適正な管理運営がされたと認められる。

<p>評価項目</p> <p>(3) 収支の状況</p> <p>経営努力:収入増加の取り組み・経費削減の取り組み</p>
--

状況説明
<p>(収入増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策用品の購入、感染防止ガイドラインを遵守することで、安心して利用いただける体制づくりに努め、利用促進を図った。 ・感染防止用品購入に関する文化庁の助成金、自主事業での J-LODlive 補助金を申請し、収入増に努めた。 ・新型コロナウイルスの影響でキャンセルされた分の損失補填を綿密に推計して提出。県に認められ、減収補填が叶った。 <p>(経費削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気料金の見直し交渉を行い、料金下げに結び付けるなど経費削減に努めた。 ・施設の修繕等については、優先順位をつけて、安全面で緊急を要するものを優先的に実施した。 ・職員全員が常に経費削減意識を持ち、不要な出費を抑えた。

評価	理由
B	・収入増や経費削減に努め、適正な管理運営がされたと認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響のため、自主事業の本数や多目的室の利用は減少したものの、他館と連携し幅広いジャンルの自主事業を行い、県内各地で芸術文化に触れる機会や地域のホール運営の専門性を向上させる機会を創出した。 ・申請書類や運営マニュアル、内規の見直しや防災士の資格取得職員の増加など、利用者へのサービス向上に取り組んだことが認められる。 ・児童生徒に対してワークショップや活動支援を行い、質の高い芸術文化に触れる機会を提供した。 <p>上記により、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。